

研修会報告

微生物部門研修会

「嫌気性菌の検査法について学ぼう」

平成 25 年 3 月 10 日（日） 13 : 00~18 : 00

東北大学医学部保健学科 大講義室・実習室 参加人数 40 名

研修内容

①講演：「嫌気性菌感染症の検査法－改定ガイドラインの要点－

グラム染色と集落から予測する推定同定」

講師：山口県立総合医療センター

中央検査部 技師長 国広誠子先生

■嫌気性菌の検査法について2012年のガイドラインや沢山のスライドを使用して懇切丁寧に説明して頂きました。

- ・嫌気性菌の菌名変更検索方法
- ・嫌気性菌の感染症は陽性菌と陰性菌の混合感染が多い
- ・嫌気性菌検査材料の採取法・と検査開始までの許容時間
- ・嫌気性菌培養期間
- ・嫌気性菌の薬剤感受性試験

②実習：嫌気性菌約50菌種のグラム染色標本の観察と代表的な嫌気性菌10菌種について各種嫌気性菌同定培地を用いた同定と講義

■嫌気性菌のグラム染色とコロニーから菌名を推測するためスライドを使用して説明して頂きました。

- ・嫌気性菌のグラム染色で推定可能な菌種
- ・嫌気性菌のレベル別同定方法
- ・嫌気性菌検査（Ryuの試験、紫外線照射、HK半流動確認培地）
- ・嫌気性菌検査キットの同定確率

■既知菌株を接種したBBE寒天培地、PEA寒天培地、BHK寒天培地、PV加ブルセラ寒天培地でコロニー形状や発育の有無を観察した。

感想

嫌気性菌の性状や嫌気培養時の酸素分圧、体腔液などの嫌気培養に適した検体などの嫌気性菌の検査全般を実経験に基づきながら教えていただきました。特に嫌気性菌の鏡検では入念な観察が必要ですし、嫌気性菌の場合は染色が1種類でも培養では陽性菌と陰性桿菌が必ず存在すること、また、グラム染色で好中球のみでも細菌は分離される場合があることなど、今まで分からないから逃げていた嫌気性菌が身近に感じるきっかけとなった参加して価値のある研修会でした。

文責 学術部 佐竹 大由